

<教育長日より 100 号 机差岳朝日に映えて 令和 8 年 8 月 28 日>



「ことばの力」を育む

～わたしの主張から学ぶ～

教育長 津野庄一郎

8 月 20 日（木）、村上市民ふれあいセンターで行われた令和 8 年度新潟県少年の主張「村上・岩船地区大会」が開催されました。大会は村上市・岩船郡青少年健全育成会議、新潟県村上地域振興局が主催し、地区内の中学校から推薦された 10 名が発表に臨みました。

発表のテーマは、自分自身のことや家族のこと、伝統文化である村上大祭、戦争と平和、偏見・差別や環境保全など多岐にわたりました。いずれの発表も、身近な出来事や社会の課題を自分自身の問題として捉え、新鮮な感覚と豊かな発想で考えを深め、自分のことばで丁寧にまとめたものでした。

いちいれんたろう

関川中学校 2 年生の市井廉太郎さんは、「安易に使ってしまう『普通』」と題して発表しました。母親との会話の中で感じた「ことばのズレ」をきっかけに、「普通」ということばの意味について考察し、相手には相手の考え方や思いがあることを認め、互いを尊重できる人間に成長したいという思いを語りました。発表前には「とっても緊張しています」と話していた市井さんでしたが、壇上では原稿を見ることなく、落ち着いて堂々と自分の思いを伝えていました。

審査員長の仙田満村上小学校長（村上市岩船郡校長会会長）は、講評の中で「自分で気づき、自分のことばで語る、すがすがしい発表でした」「ことばと行動を通じて、自分の生き方や社会の在るべき姿を示してくれた」と、10 名の発表者を称えました。

現代社会では、SNS 等による誹謗中傷、フェイクニュースなどさまざまな情報が飛び交います。学校や地域においても、ときに何気ないことばや言動が、人の心を傷つけてしまうことがあります。一方で、ことばには人の心を温め、勇気や希望を与える大きな力があります。また、不満や怒りを暴力で相手にぶつけることは決して許されるものではありません。だからこそわたしたちはもっと「ことばに敏感」である必要があるのではないのでしょうか。

今回、10 名の素晴らしい発表を聴き、あらためて「ことばの力」の大切さを感じました。子どもたちが、さまざまな人とのかかわりの中で、相手の思いに耳を傾け、自分の思いを自分のことばで伝え、互いを尊重する力を身に付けていくことを願っています。

これからを生きる子どもたちに、豊かな「ことばの力」を育んでいくこと。それは私たち大人の大切な役割の一つではないのでしょうか。 <【写真】奨励賞を受賞した市井さん>